

令和7年秋田県の大雨災害に伴う 対応の振り返りと課題

令和8年1月28日

秋田県生活環境部環境整備課

技師 工藤 萌々香

1. 被害状況

- 24時間降水量の期間最大値

8月5日～9日

観測地点	観測値 (mm)
本荘	193.0
阿仁合	159.0
大正寺	132.5
脇神	111.5
能代	96.0
田沢湖	95.0
鷹巣	94.5
藤里	93.5
岩見三内	93.5
田沢湖高原	92.5

8月19日～21日

観測地点	観測値 (mm)
桧木内	263.0
田沢湖高原	233.5
鎧畠	217.5
大館	201.0
阿仁合	199.0
比内立	198.5
藤原	166.0
鷹巣	157.0
陣馬	155.0
脇神	143.0

9月1日～3日

観測地点	観測値 (mm)
比内立	236.5
八幡平	222.0
脇神	213.0
桧木内	209.0
大館	205.0
能代	181.5
阿仁合	181.0
岩見三内	180.5
藤原	170.5
鷹巣	169.0

1. 被害状況

- 建物被害

災害発生日	住家					非住家
	全壊	半壊	一部 破損	床上 浸水	床下 浸水	合計
8月5～9日	1	1	1	2	22	27
8月19～21日	0	18	0	3	85	106
9月1～3日	0	19	2	18	232	271
						232

- 災害廃棄物発生総量（推計）

8月5～9日 : 1.9 t

8月19～21日 : 127.9 t

9月1～3日 : 82.6 t

1. 被害状況（9月1日～3日）

- 災害廃棄物仮置場設置状況

合計：4箇所（1市2町）

（内訳）

能代市：2箇所 五城目町：1箇所 三種町：1箇所



災害廃棄物仮置場設置の様子（左：能代市、右：五城目町）

2. 災害廃棄物対応の振り返りと課題

円滑に対応できた点

- ・災害廃棄物の回収及び住民への周知を行うにあたり、速やかに廃棄物収集運搬・処分業者との打合せ・調整を行ったことで、円滑な収集・処分を実施することができた。
- ・日頃より関係事業者とのコミュニケーションを図っていたため、「一般廃棄物収集業組合との災害協定」に基づく災害廃棄物処理をスムーズに行うことができた。

2. 災害廃棄物対応の振り返りと課題

課題と対応案

課題	対応案
災害発生から災害ごみの回収と住民周知を行うまでに時間を要した。	今回の経験を活かし、 <u>具体的な対応のひな形を残しておく</u> ことで、次回以降は災害発生から周知・回収までの間を少しでも短縮したい。
一時保管場所の確保に苦労した。	当初予定していた場所は砂利敷きの土地だが、現地確認したところ、草が繁茂し、かつ湿地帯のため状態が悪く、急遽別の一時保管場所を探し、確保した。あらかじめ、「 <u>広い・舗装されている・人目につかない</u> 」場所を候補地とし、災害時に使用できるよう取り決めをしておけばスムーズだと感じた。また、国や県の土地も候補地とするため、 <u>関係機関と事前に協議</u> したい。
事業所から排出された災害ごみの受入れが可能か判断に迷った。	事業所から申し出があれば受け入れるが、市（広域）の処理施設で処理できないものは対応不可ということとした（今回は処理不能物の申し出はなかった）。市の災害廃棄物処理計画において、 <u>事業所から出た災害ごみの処理</u> に対して明記していないため、明記することを含め、計画の全体的な見直しを検討中。

2. 災害廃棄物対応の振り返りと課題

課題と対応案

課題	対応案
市有地を汚泥の仮置場として利用していたところ、同敷地に自然発的に勝手仮置場が発生した。市職員がチラシを各集落に配布し「災害廃棄物は各自自宅前に出す」よう周知したが、ボランティアの搬出作業なども行われたことにより勝手仮置場への搬入がしばらく続いた。	利用しやすい市有地が少ないこともあり、汚泥の仮置場が災害廃棄物置場と口伝されたものと推察している。避難所の開設や住民の避難が優先された状況もあるので、今後は <u>交通網寸断や公営施設の機能が生じた場合における住民広報手段</u> について、改めて検討を進めたい。
災害廃棄物を収集している中で、一部の不在住宅所有者が帰宅し、「実家の廃棄物処理」としてごみ出しを行う事例があった。市で災害廃棄物収集が完了していると認識していた地区において、不在住宅前にごみが排出されている状況が多数確認された。	本来は市の災害廃棄物収集では担当課へ連絡の上、後日収集に向かうスキームとしているが、他市在住で週末のみ実家の片付けをする住民の情報については把握ができない。今後は <u>市外在住者に対するチラシの配布等といった情報発信</u> について検討を行い、 <u>需要の把握</u> 等に努めたい。

2. 災害廃棄物対応の振り返りと課題

課題と対応案

課題	対応案
浄化槽汚泥の処理ルートの確保に時間がかかった。	当町は、し尿処理施設を有していないため、他自治体や民間にお願いしなければならず、処理ルートの確保に時間を要した。発災から約1か月後、県からの情報提供をもとに、契約を締結することができた。 <u>平時から、処理ルートを確立しておく必要がある</u> と感じた。